

神事

しんじゆ

特集 第六十回全国神社総代会大会



連載

御遷宮のしおり…御木曳行事
懐かしの「昭和百年」に見る神社の風景



令和八年度に向けて

長野県神社庁長 滝 和人

県内神社関係者の皆様には、日々奉仕神社の護持運営並びに当庁の諸業務に深い御理解と御協力を頂戴しておりますことと厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国神社総代会大会を始め県神社庁総代会連合大会など、大きな行事にも多大なる御理解と御協力を頂戴いたしましたこと重ねて御礼申し上げます。

お蔭をもちまして全国大会並びに連合大会共に大過なく開催することができ、特に全国神社総代会大会においては東海五県を始め、



御挨拶

長野県神社総代会長 藤村 吉彦

県内各神社の氏子総代の皆様におかれましては、地域の氏子の代表として神社の護持運営に御尽力頂いておりますことに深く敬意を表しますと共に、私ども県神社総代会の諸事業に関しましては、日頃より御高配を頂戴しておりますことと厚く御礼申し上げます。

昨年の十月二十八日に開催しました全国神社総代会大会には、県内各地より多くの氏子総代の皆様にお越し頂き全国各地より神職や氏子総代の皆様を盛大にお迎えできましたこと、衷心より重ねて厚

全国よりお越し頂いた多くの皆様よりお褒めの言葉を頂戴しておりますこと皆様に御報告申し上げます。

神職や氏子総代は、日常それぞれの神社で神明奉仕に励んでいますが、この度の大会のように関係者が一堂に会して、神宮遙拝や敬神生活の綱領の唱和、並びに聖寿万歳を行うことは、全国の神社関係者の強い繋がりや連帯感が実感できる貴重な機会になったかと思えます。

神社を取り巻く情勢は年を経る毎に厳しくなっておりますが、県内各地や全国津々浦々にも、私たちと同じく神明奉仕のために日々御活躍されている仲間が多くおります。この先も、県内は元より全国の神社関係者の強い絆を以て遷宮奉賛を始め、神社や祭礼の護持継承に努めていくことが先人達の想いに応えることではないかと思えます。

く御礼申し上げます。

私ども神社総代会設立以来の最大の行事となり、開催県の会長として当日までは非常に不安な日々を過ごしておりましたが、いざ当日の盛況を拝しますと改めて県内神社関係者の結束を実感し、この先の神社界の発展を確信することができました。

当日お越し頂きました全国総代会を始め神社本庁の役員の皆様方からも、「盛況な大会であり長野県の神社関係者の素晴らしい結束を拝見でき感動した」とのお言葉も多く頂戴しております。

この先も、このような団結の絆をもって各神社の護持発展に邁進して頂ければ幸甚に存じます。

特集

第六十回 全国神社総代会大会開催



全国神社総代会主催にて開催している総代会の全国大会は、各県の持ち回りで毎年開催されており、令和七年度は十月二十八日長野市ホクト文化ホールを会場として総勢一三〇〇名余(内県内参加者約七〇〇名)の参加者にて開催されました。

本大会は、日頃より全国各地の神社それぞれにて神明奉仕に励む氏子総代が一堂に会し団結と進むべき方向の確認のために開催しているものであり、神社本庁並びに開催県神社庁の全面的な支援により開催されています。

長野県においては昭和二十一年に県神社



庁並びに県神社総代会が設立されて以降、最大の行事となり神職及び氏子総代など県内の神社関係者の総力をもって準備運営に当たることとなりました。

大会は午後十二時五十分から清興・記念講演・式典の三部構成とし、第一部の清興には『戸隠神社太々神楽』が披露されました。当神楽は県の無形民俗文化財にも指定され戸隠神社と最も縁が深い「天の岩戸開き」に因んだ舞が伝えられており、始めに告文が奏上される神事として献奏されることとが特徴です。普段は清浄な神域内のみで行う神楽ですが、この度の全国大会に際し特別に神社外にて披露されました。

当日の午前中には、全国神社総代会役員並びに鷹司尚武神社本庁統理及び久邇朝尊神宮大宮司を始めとする神社本庁役員が戸隠神社中社に正式参拝をされました。

第二部は、長野県立大学学長である金田一真澄氏による記念講演を実施。「グローバルな視野で若者と一緒に地域の未



来を」と題した講演では、日本特有の地理的環境、歴史と神社や神道との関わり、言語や文学に見られる感性がいかに育まれてきたかを述べられました。また自然と共に生きてきた日本文化の核として、地域毎に伝承されてきた祭礼の護持について触れ、現状の人口減少社会の中で各地域に伝承されている祭礼を維持していくか、そのための方策の一つとして、学生ボランティアの活用など提言し「若者と各神社や地域の人々との関係の構築により、地域の活力が増す、という広い視野を持って神社や地域の未来を紡いで欲しい」と講演されました。

第三部の式典では藤村県総代会長の開会の辞に続き、全国総代会長（代理後藤康雄副会長）式辞として「全国神社共通の課題である少子高齢化の中での祭祀の護持継承について、改めて全国各地の神社関係者がある価値を再認識し、次世代に継承していきけるよう関係団体とより緊密に連携していくべき」と挨拶されました。その後、規程表彰として長年の神明奉仕の功績を称えるべく全国各地の総代六十三名の表彰を行いました。

式典には来賓として鷹司統理・久邇大宮司を始め神道政治連盟会長（代理林秀俊副会長）・有村治子参議院議員・長野県知事（代理新田恭士副知事）・萩原健司長野市長が出席されました。

鷹司統理からは「いよいよ諸祭儀も始動した神宮式年遷宮、斯界を挙げて遷宮の意義啓発に努め国民総奉賛の気運を高めて参りたい」との祝辞に続き、久邇大宮司からも、遷宮の御用材を納める木曾の御杣山と数百年に亘る関わりなどにも言及された祝辞が述べられました。

その後、表彰者謝辞・事業報告を経て大会宣言が満場一致で採決され、次年度開催県である和歌山県総代会副会長の挨拶に続き聖寿万歳にて閉会しました。

第六十回 全国神社総代会大会

大会宣言

大東亜戦争終結八十年の節目の年を迎えるにあたり、我々神社総代は、家族の安寧と祖国の弥栄を願ひながら、その尊き命を擲たれた英霊の御霊に感謝と尊崇の真心を捧げるとともに、その御遺徳を顕彰し、真に豊かな国を築いてゆくべく、国民精神の復興に努めてきた。

時恰も第六十三回神宮式年遷宮の諸祭儀が古式ゆかしく斎行されてゆく中で、我々は新たな決意と覚悟を以て、その意義啓発と国民総奉賛の機運の醸成に努めるとともに、建国以来受け継いできた瑞穂の国の麗しき文化と伝統を力強く継承することを期し、次の目標を掲げ、共に邁進することを誓ふ。



- 一、第六十三回神宮式年遷宮に向けて神宮奉賛の誠を捧げ、神宮大麻の頒布活動に一層尽力するとともに、皇室敬慕の念の醸成に努める。
- 一、神職と一致協力して、祭祀の厳修と適正な神社運営に努めるとともに、地域社会の活性化に資するべく、伝統文化の継承と共同体意識の昂揚に努める。
- 一、鎮守の森の保護育成を通じて、次代を担ふ健全な青少年の教化育成に努める。

令和七年十月二十八日

第六十回全国神社総代会大会



第八十回 長野県神社庁長野県神社総代会連合大会

令和七年度の神社庁神社総代会の連合大会が十月三十一日、佐久市猿久保の長野県立武道館に於いて南佐久支部・支会の当番により開催されました。

開催に先立ち、清興として佐久市湯原の湯原神社式三番の前年奉納舞台が映像にて紹介されました。この式三番は二百六



県指定無形民俗文化財 湯原神社式三番



日本会議 谷口智彦会長による記念講演

十三年前の宝暦年間に奉納記録が残っています。次に、日本会議会長の谷口智彦氏による記念講演が行われました。御自身の誕生日に安倍元総理が夢枕に立たれ諭されたことが会長受託の大きな理由になったこと、安倍政治の継承を期待される高市内閣の展望についてなど、安倍内閣の内閣官房であった谷口氏ならではの貴重なお話を伺いました。その後日程に従い大会が開催されました。次年度当番となる木曾支部長挨拶の後、聖寿の万歳をもって散会となりました。



功績表彰

本年度の受賞者は神職三名、総代十三名でありました。
当日暖房設備がうまく作動せず、会場内肌寒く感じられたと存じます。当番支部としてここにお詫び申し上げます。

第五十七回 全国諏訪神社連合大会開催

令和七年十月二十二日・二十三日に亘り諏訪大社（宮司村上益弘）において第五十七回全国諏訪神社連合大会が開催されました。この大会は、全国のお諏訪様を奉祀する御分社の宮司や神職、総代等関係者が一年に一度総本社である諏訪大社に集い開催されるもので、大会前日には全国諏訪神社連合会役員会、大会一日目は北海道から九州まで全国各地より約三〇〇名が参加しました。

先ず参加者は諏訪大社下社秋宮（下諏訪町）に集合し正式参拝の後、会場を茅野市民館に移し総会を開催。総会では全国諏訪神社連合会会長（諏訪大社宮司村上益弘）挨拶に続き、県神社庁長滝和人氏、開催地の茅野市長今井敦氏の来賓挨拶があり、参加者を代表して埼玉県深谷市岡廻宮神社宮司渡邊俊雄氏が挨拶しました。続く議事では、令和六年度事業報告・決算及び令和七年度活動計画・予算の審議等が行われました。議事終了後には恒例の諏訪信仰に関する講演として、文筆家北沢房子氏による「諏訪の神さまが気になるの」なぜ諏訪神社は

広がった？」と題して講演が行われました。講演後は、清興として御諏訪太鼓保存会による御諏訪太鼓の演奏が披露され、その後全国御分社の弥栄を祈念し万歳三唱を行い、盛会裡に一日目の大会を終了しました。

翌日二日目は午前九時より諏訪大社上社本宮（諏訪市）において参加者約一〇〇名が参列する中、村上宮司による神徳敬仰奉賛祭が斎行され、諏訪大神の大稜威に感謝し、皇室の弥栄、全国諏訪御分社、関係者の弥栄隆昌が祈念されました。祭典後は紅葉真盛りの蓼科へ向かい車山スカイプラザにおいて解散式を行い、一同来年の再会を誓い、全日程を終了しました。



神徳敬仰奉告祭



全国諏訪神社連合会会長挨拶

御遷宮のしおり②：御木曳行事

おきひき

前号では、「御遷宮いろは」として伊勢の神宮について、また御遷宮の基本について記しました。今号では、今年からいよいよ始まります「御木曳行事」について、また更に踏み込んで「御遷宮」について一緒に学びたいと思います。

「御遷宮」で使われるのは何の木？

御社殿や鳥居、宇治橋などの建造物を建てる際に使われる木を「御用材（ごようざい）」といいます。遷宮の御用材には、太くて長い国産の檜が使用されます。

どのくらいの量が使われるの？

量にして約八千五百立方メートル、本数にすると約一万本といわれています。



第62回御遷宮「御仙始祭」

どこから伐り出されているの？

遷宮の御用材を調達する山のことを「御山（みそまやま）」といいます。鎌倉時代中期までは、神宮のすぐ後ろの山を御山とし御用材が伐り出されてきました。しかし御遷宮には沢山の木が使われますから、御山の裏山は二十年毎の御遷宮を重ねるうちにみるみるハゲ山になってしまい、適した材木が調達できなくなってしまいました。そこで御山は、三河や美濃などを転々とし千七百年代から現在に至るまで木



化粧が施される御神木

曾の山を御山としています。二百年以上も木曾の山から御用材を伐り出すことができてきたのは、木曾には「木一本、首一つ」という厳しい伐採禁止令が敷かれるほどの保護政策があったからといわれています。現在では、再び神宮の裏山を御山とするための植林が始まっていますが、御用材になるには二〜三百年の月日が必要といわれていますので、実際に御用材として伐り出されるには今から百年は先になるとのこと、まだまだ先の話のようです。



御木曳行事 (平成18年5月)

御木曳行事とは何ですか？

前号で紹介した「御仙始祭」で伐り出された「御樋代木」を曳き込む「御樋代木奉曳式」が昨年六月に行われましたが、一般的には御山から伐り出された御用材を、神宮の神域まで運び込むのが「御木曳行事」です。陸路を曳くのが「陸（おか）曳」、



御木曳行事「奉曳車」(平成18年5月)

神領民でないも御木曳行事に参加できないの？

内宮には五十鈴川を利用して曳く「川曳」があり、地元伊勢に住む「神領民」が担っています。

以前は神領民でないと当行事に参加することが許されていきましたが、第六十回御遷宮から神領民以外（神社本庁関係者・一日神領民）の参加が許されるように



第62回御遷宮により建て替えられた内宮の鳥居

御木曳行事はいつ行われるの？

なり、徐々に条件が緩和され、前回の第六十二回御遷宮では一般募集（一日神領民↓特別神領民）が行われるようになりました。第六十三回御遷宮も、一般募集が行われますので是非御参加ください。

今のところの予定ですが、第一次御木曳行事は令和八年五月九日～六月十三日（陸曳）、同七月二十五日～八月二日（川曳）。第二次御木曳行事は令和九年五月八日～六月十二日（陸曳）、同七月二十四日～八月一日（川曳）とあります。

取り壊された建物の御用材（古材）はどうなるの？

神社庁よりの通知に具に目を通していただき、御参加いただければ幸いに存じます。

古材といえど一皮むいて削れば新品同様ですので、内宮と外宮の棟持柱は二十年後には宇治橋の入口（外側）と出口（内側）の鳥居になります。その鳥居は二十年後に、桑名市の七里の渡し場と関宿の東追分の鳥居に再生されます。つまり六十年もの間、第一線でお役目を果たされているのです。



桑名七里の渡し場 伊勢国一之鳥居

他の御用材（古材）はどうなるの？

解体後の古材は、内宮・外宮の摂社・末

社の修繕の御用材となるほか、全国の神社の修繕や、災害に遭った神社の改築・修繕等に使用されるべく払い下げて（撤下・下附）頂きます。ちなみに、第六十一回御遷宮後、七里の渡の鳥居は阪神淡路大震災で被災された生田神社の用材に、関宿の東追分の鳥居は生田神社正面の鳥居として再利用されているそうです。神社本庁を通して申請が必要ではありますが、このように災害によって喪失または焼失されてし



関宿の東追分 一之鳥居



まった神社には優先的に下附して頂けるようです。

作り替えられた御装束・御神宝はどうなるの？

神様がお使いになられる御装束・御神宝、こちらにも全国の神社に下附されます。神宮の御祭神と縁のある神社であるとか、撤下の展示手段等の条件はありますが、古材・御神宝いずれにいたしましても、神宮や御遷宮の意義を広め、盛り上げる一助となっております。神社本庁を通じて申請をして頂ければと思います。

県内で神宮より下附されている神社は？

古いところで諏訪大社上社前宮の御本殿は、昭和六年の御遷宮古材の下附を受けて

建てられました。新しいところでは四柱神社の招魂殿が、前回の御遷宮で外宮の外幣殿の古材で建てられたということで、今回、四柱神社の宮坂宮司さんにお話を伺って参りました。以前の招魂殿は、建立以来長い年月風雨に晒され傷みが激しかったので、古材を下附頂くよう申請をしたところ、外宮の外幣殿を一棟そのまま下附頂けたそうです。古材は、前回の鳥居のように一皮削って使用することが多いのですが、削って使用すると小さくなってしまいうため削らずに



四柱神社 招魂殿

洗浄して再建立したとのことですから、松本にお立ち寄りの際は是非とも四柱神社さんにお参りし、唯一神明造の外幣殿そのまます。まのお姿を間近で見させて頂ければと思います。



金銅作御太刀

四柱神社では、前回の御遷宮で申請をされたところの四点の御神宝が下附されたとのことと拝見して参りました。
一、金銅作御太刀（こんどうづくりのおんたち） 皇大神宮御神宝
一、御楯（おんたて） 皇大神宮別宮伊佐奈岐宮御神宝



御楯・御弓・御胡縁

一、御弓（おんゆみ） 豊受大神宮別宮風宮御神宝
一、御胡縁（おんやなぎい） 豊受大神宮別宮風宮御神宝

現在展示されているケース（展示施設）は、外幣殿を招魂殿にと下附された際に修繕材として多めに頂いた古材で作られたそうです。お参りに来られた参拝者に、御神宝を見て頂き説明をすることで、神宮に関心を持って頂く、また神宮崇敬の気運を高めるため、そして神宮のこと御遷宮のことを理解して頂くよう目につくところに展示しているとのこととです。そのお隣には外幣殿の鯉木が展示されており、二十年風雨に晒され朽ちた状態が分かります。宮坂宮司さんは、これを見ながら「天武天皇の御代から、わざと朽ちるように作らせ二十年経ったら腐り建て替える。日本人は蘇りを常とし、主食のお米は籾を蒔いて収穫してを繰り返す、命の連鎖と同じ、人間も経年

劣化し子孫繁栄のために命をバトンタッチする。それを形で表してくれているのが御遷宮ですよ。」というような説明をされているそうです。



豊受大神宮 外幣殿 鯉木

同じように、県内には「戸隠神社（長野市）」や「麻績神明宮（麻績村）」と「刈谷澤神明宮（筑北村）」また「宇賀神社（信濃町）」にも神宮より御神宝が下附されたと神州一二三号（平成二十八年八月一日発行）で特集されていましたが、皆様の身近な神社も神宮に御縁のある神社かもしれませんので興味を持ってお参り頂ければ幸いです。

懐かしの

昭和 100年

に見る 神社の風景

信濃國一之宮 諏訪大社

編集長の
こころいね

流石の迫れ
と荘厳さ!



昭和13年 上社本宮御柱固祭

上社



本宮一 建御柱

式年造営御柱大祭



昭和13年 下社里曳き注連掛より曳出し

下社



秋宮一 建御柱

編集長の
こころいね

御前も立派!

信濃國二之宮 矢彦神社



昭和38年 一之御柱里曳き集合写真



昭和56年 建御柱

編集長の
こころいね

その日の衣装が
衣装が美しい!

信濃國二之宮 小野神社



昭和14年 騎馬行列集合写真



昭和14年 里曳き

神社に関する昭和の風景をご紹介します。
ご提供いただけるお写真をはじめ、ご意見やご感想等お気軽に庁報編集委員会までお寄せ下さい。
あなたの身近なところに委員がいる…かも。



教化部事業報告

神道行法錬成研修会

教化委員会 委員長 立澤俊輔

令和七年九月十二日、木曾郡王滝村の御嶽神社また御嶽山三合目の清滝に於いて禊行を行いました。今回参加者は九名、始めに御嶽神社別殿にて開講式の後、講師の神社庁錬成行事道彦保科正広先生による禊祓行事や鎮魂行事についての講義を受けました。講義を終えて、清滝へ移動。ちよつとした登山を思わせる登り道を登ればそこには雄大な清滝が待っています。保科先生



清滝での禊祓行事



御岳神社別殿での鎮魂行事

先導により、祓詞、鳥船行事等、禊祓行事が進み、初参加の方もいる中ではありましたが、心が一つとなり、掛け声や所作が揃っているように感じました。この後いよいよ滝へ入水。この研修会は暑い時期に行うのが常ですが、今回は九月の開催ということでも、いつもより遅い季節の滝水は更に冷たさを増していました。それ故か今まで以上に心

日誌抄

(主要行事のみ抜粋)

25 16 4 16	27 26	22 22 26	21 21	27 22 17 15	15 3 15	20 20 17	31 28 24	8 7	18 17 12	4 11 18	30 25 21	18 7 18	30 27 14	5 3	
25 16 4 16	27 26	22 22 26	21 21	27 22 17 15	15 3 15	20 20 17	31 28 24	8 7	18 17 12	4 11 18	30 25 21	18 7 18	30 27 14	5 3	
東海五県神社庁教化神政連 理事会	神政連県本部研修旅行 理事会	神政連県本部研修旅行 理事会	神政連県本部研修旅行 理事会	神宮大麻頒布研修会 東海五県庁長参事会 理事支部長合同会議 神宮大麻頒布研修会	第71回神宮新穀感謝祭 辞令伝達式 総代会支会長会	東海五県紅葉会 県敬神婦人連合会総会 県内紅葉会	全国神社総代会大会 第80回連合大会	神宮大麻頒布始奉告祭 理事会 本庁評議員会	神道行法錬成研修会 神殿例祭 辞令伝達式	祭祀舞研修会 神宮大麻頒布始奉告祭 神道行法錬成研修会	県教育関係神職協議会総会	靖國神社参拝旅行 初任神職研修会(後期) 上皇上皇后両陛下御奉迎 総代会支会長会	兼職祭式研修会 初任神職研修会(前期) 第107回定例協議員会	県下神職親睦球技大会 雅楽研修会 理事会	
於 三重県	於 栃木県	於 三重県	於 三重県	於 生島足島神社	於 長野市松代町	於 三重県 於 飯田市 於 木曾郡木曾町	於 神社本庁 於 ホクト文化ホール 於 県立武道館	於 神社本庁	於 木曾郡王滝村	於 神宮	於 北佐久郡軽井沢町	於 上田市 於 深志神社			

身を清められた気がしました。その後、別殿に戻り鎮魂行事を行いました。雪洞の灯りのみが受講者を照らす中、一心不乱に身体を揺らしながら鎮魂を行いました。鎮魂行事が進むにつれ、日常では感じられない不思議な感覚を体験することができました。教化委員会も新たな体制となり、初めての研修会の開催となりました。まだまだ不慣れで、多々不手際もあったかと思いますが、無事にやり遂げられたことを、今は嬉しく思います。次回開催の際は、以前のように宿泊も含めた研修会を企画したいと思っています。

青少年と共に

〜第二十二回靖國神社参拝旅行〜

青少年対策推進委員会 委員長 下原伸一

靖國神社参拝旅行の折、参加者に書いて頂いた作文を読んでもみますと、中学生から大学生という成長期の学生独特の視点、感性を文脈の中から感じ取ることができます。

終戦八十年の本年は、八月七日〜八日総勢三十九名の参加。出発時降っていた雨も上がり晴れ渡った空の下、御英霊の心に触れる東京の旅でした。

感想文

中学二年生

私は今まで伊勢神宮に行く子供参宮団に参加していましたが、今年初めて靖國神社参拝旅行に参加しました。学校の歴史の授業で戦争について勉強していたけど特攻隊として国のために戦ってくれた人たちの存在や思いにはあまり勉強していなかったのととてもいい機会になりました。バスの中の事前学習で犠牲者の数や祀られている英霊たちの数を知ったけど何部屋にも続いて終わらない遺影をみてやっと数の多さを実感できました。そしてこんなに多くの方が自分の命に代えてでもまもりたかったものはなんだったんだろうと考えさせられました。戦争では東京も空襲を受けたのに今は先進国としてたくさんさんのビルやささいな街並みがつくられているのは戦後の先人たちの努力や英霊たちの尊い犠牲の上に

成り立っていることに改めて感じさせられました。

私が遊就館の中で最も心に残ったものは特攻隊のことです。航空機に乗り爆弾といっしょに体的に体当たりしていたと知ったときはとても驚きました。生きて帰ってくることはできないと知りながらどうして戦闘機に乗ることができたのかとても不思議でした。私だったら逃げ出してしまふと思つたからです。ですが、飛び立つ前に残した特攻隊の方たちの友人や両親、妻への遺書を見て命に代えても守りたいものがあつたのだと思ひました。

英霊たちも、英霊たちの遺族も、原爆や空襲に巻き込まれた人たちも、敵国の人も、きつと誰一人戦争で幸せな思いをした人はいないと思つから先人たちがまもりたかつた平和が全世界に広がつて欲しいと思いました。

祭祀委員会の活動

祭祀委員長 清住邦廣

「およそ祭祀とは神祇をひたすら奉斎し、神勅に明らかな報本反始の誠を捧げて、神威を敬仰すべきことをもつて本義とする。」とは、神社祭祀規定における最初の項の一文です。

私ども祭祀委員会は、祭祀の興隆発展の

ために設けられたものであることを前提に活動を続けています。

今期の活動計画として、およそ恒例となつてきている雅楽・浦安の舞・祭祀舞の研修会を開催、祭式研修会においては、各支部や地区にて三日間の開催を必須として勸奨します。各種研修会はその場所・時期・曜日等々により参加者の増減がみられますが、より参加しやすい状況を構築するべく、

講師先生や参加者に対するヒアリング結果を反映させたいと思います。

また、過去の成果物などを、今でも社務所や自宅にて活用されている方も多いと思いますが、歴々の祭祀委員会により展開されてきた様々な事業の想いを汲むため、その内容を調査し、次期に引き継ぐべき参考資料として纏め、さらに必要に応じて復刻あるいは更新し広く周知することも含めて検討して参ります。

教化委員会活動紹介

教化委員長 立澤俊輔

教化委員会委員長を仰せつかりました上伊那支部の立澤俊輔です。教化委員会で企画する研修は、教養研修会・神道行法錬成研修会などがあります。教養研修会では、神職及び氏子総代の課題や研究・外部研修等、内容・時局に即し必要な事を研修会として委員会で企画し、皆様と共に学びたいと思っています。また神道行法錬成研修会では神社庁錬成行事道彦保科正広先生の指導の下、禊行や滝行を行っています。滝行は心身共に鍛えられる貴重な経験となりますので、是非御参加頂ければと思います。また毎年行っています氏子総代研修会の実

施や教化部研修旅行の企画。更には、家庭祭祀推進のためのモダン神棚の展示案内も行っていきます。御依頼を頂ければ、各支部の大会等に伺いますので、御検討ください。委員一丸となって企画して参りますので、その際は大勢の皆様の御参加を宜しくお願いいたします。

調査委員会

調査委員長 森井広宣

今期の調査委員会では、過去に取り組んできた県内氏子区域の調査結果の可視化を図り、WEB上での一般公開を計画しております。神社庁のホームページ内で県内神社の基本情報をベースとして作成し、関連する情報を紐付けることで神社広報の強化を図り、参拝を促すきっかけとなれば良いと考えております。

神社庁では、地元の氏神神社に関する問い合わせが多い中、まずは神道青年会創立七十周年記念事業として調査・作成した「長野県内神社氏子区域一覧」を活用し、基本情報に加えて公開することで、自身の住む場所の氏神神社を知る機会となります。更には、神社と氏子の繋がりを再認識して頂くことにより、祈祷の相談や御神符の授受

など神社と氏子との円滑化を図れることを目指し進めて参りたいと思います。

本計画遂行に当たりましては、県内神社の宮司をはじめ神職、関係各位の皆様方の御理解、御協力が必要不可欠でございますので、是非お力添えの程宜しくお願い申し上げます。

青少年対策推進委員会

青少年対策推進委員長 下原伸一

青少年対策推進事業におきましては、春の子供参宮団、夏の靖國神社参拝旅行を実施しております。

子供参宮団では、伊勢の神宮において、御神楽を奉納して御垣内にてお参りをします。また、おはらい町を散策して神宮会館に宿泊するなど、貴重な体験ができます。

靖國神社参拝旅行では、東京の靖國神社をお参りして、日本の近代史を学び、平和の尊さについて考えを深めます。

そして青少年向けのホームページの更新、各事業の参加申し込みの際、二次元バーコードを利用するなど利便性を図りながらいわゆる“Z世代”といわれるデジタル機器になじんだ現在の青少年の教化に取り組みで参ります。

新しく任命された神職を紹介しします

新任神職の横顔



かさはら ひなな
笠原 羽奈
賀茂神社 権祢宜
諏訪支部 二十三歳

この度、賀茂神社権祢宜を拜命いたしました。幼い頃より神職として奉仕する祖母の姿を見て神職を志し、こうして奉仕できますことを大変嬉しく存じます。

昨年まで大学にて神道について学び、本年社会人となったばかりではございますが、氏子の皆様に信頼して頂ける神職となれるよう、日々精進して参ります。

未熟者ではございますが、今後とも御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

未熟者ではございますが、今後とも御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



すやま ともゆき
巢山 智之
鎮神社 祢宜
木曾支部 四十二歳

令和六年十二月一日付で鎮神社の祢宜を拜命した巢山と申します。

当社は中山道奈良井宿に鎮座し、約四〇〇年余りにわたり宿場に住まう人々と

中山道を行き交う旅人を見守って参りました。

昨年の四月一日より妻と二人で常駐しております。

長らく他県にりましたが、県内の事情に疎いところもありますが、永きにわたり地元の方々が大切にお守りしてきた氏神様を次の世代へ継承していく為に、また斯界の更なる発展の為、微力ながら誠心誠意神明奉仕に務めて参る所存です。

先輩諸賢におかれましては何卒御指導御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



おおた ひでさだ
太田 秀享
大田神社 権祢宜
長野支部 二十五歳

東京の神社で御奉仕させて頂いた間に培ってきた氏子さんとの関わり方・繋がり方を、その土地に合った方法で氏子さんや参拝者の方々に実践し、神社が皆様にとって憩いの場であるように精進したいと思っております。

また、時代の流れに沿いつつ先人の想いとともに教化活動を行っていきたく思っております。

神道青年会報告 長野刑務所より感謝状授与

神道青年会では、例年年末に長野刑務所と松本少年刑務所において、大祓式並びに各祈願祭を斎行しております。この度、長年の奉仕に対し長野刑務所より感謝状を頂戴いたしました。

青年会員のみが奉仕できる貴重な機会であり、学びの多い時間となっております。引き続き教化活動の一助となるよう取り組んで参ります。

長野刑務所での斎行の様子



教誨師の先生方と奉仕員



神社本庁統理感謝状 三百万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
飯伊支部	廣幡八幡神社	飯田市	林 孝人

長野県神社庁長感謝状 三千万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
大北支部	諏訪神社	白馬村	(株)岩岳リゾート
大北支部	黒川諏訪神社	小谷村	(有)千国板金
長野支部	伊勢神社	長野市	内田元一



昇級・神職身分二級

飯玉神社	宮司	猿田悦子	十・一	北佐久
諏訪大社	権祢宜	葛巻吉弘	十・一	諏訪
七窪神社	宮司	紫芝光司	十・一	上伊那
松原神社	宮司	武井喜信	十・一	上水内

別表神社宮司任命

戸隠神社	本 宮司	大杉明彦	九・一	上水内
------	------	------	-----	-----

任命

秋葉神社	兼 宮司	塩入 哲	六・二十	上水内
諏訪神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
平原神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
富士浅間神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
諏訪神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
八満弓神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久

石神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
-----	------	------	-----	-----

大久保神社	兼 宮司	水澤貴文	九・一	北佐久
-------	------	------	-----	-----

今村神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

智子神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

智児神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

諏訪神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

手長神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

神明神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

露原神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

白山神社	兼 祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	------	------	------	-----

小川神社	兼 祢宜	藤井治樹	十一・二	上水内
------	------	------	------	-----

諏訪神社	兼 宮司	名取人利	十二・二	諏訪
------	------	------	------	----

長池神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

八幡神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

芋井神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

池生神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

八幡神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

八幡神社	兼 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

習焼神社	本 宮司	原 彰紀	九・一	諏訪
------	------	------	-----	----

弥栄神社	本 宮司	倉澤 玄	九・一	長野
------	------	------	-----	----

武水別神社	本 祢宜	畠山 智	十五	更級
-------	------	------	----	----

賀茂神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

大田神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

賀茂神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

賀茂神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

賀茂神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

賀茂神社	権祢宜	太田秀享	九・一	長野
------	-----	------	-----	----

諏訪神社	祢宜	島田幸子	十一・二	上伊那
------	----	------	------	-----

諏訪社	祢宜	神田宏美	一・一	飯水
-----	----	------	-----	----

熊野皇大神社 (東京都 蛇窪神社 より転入)	本 権祢宜	釘田拓磨	十一・二	北佐久
------------------------------	-------	------	------	-----

水内鎮神社 (戸隠神社より)	宮司	水野邦樹	九・一	長野
-------------------	----	------	-----	----

諏訪大社	権祢宜	小松聖弥	八・三十一	諏訪
------	-----	------	-------	----

大伴神社	祢宜	金井重忠	九・十五	北佐久
------	----	------	------	-----

戸隠神社	本 宮司	水野邦樹	八・三十一	上水内
------	------	------	-------	-----

諏訪神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
------	------	------	-------	-----

平原神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
------	------	------	-------	-----

富士浅間神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
--------	------	------	-------	-----

諏訪神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
------	------	------	-------	-----

八満弓神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
-------	------	------	-------	-----

石神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
-----	------	------	-------	-----

大久保神社	兼 宮司	金井重忠	八・三十一	北佐久
-------	------	------	-------	-----

奉務神社	階位・身分	氏名	帰幽日	支部名
南方富神社	正・二級上	堀内静夫	八・十	更級
古宮神社	正・二級	越志秀徳	十一・十二	上水内
諏訪神社	権正・三級	小林史人	一・二十	北佐久

帰幽 謹んで御霊の安らかなることをお祈りいたします

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

退職

令和6年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	699,000	699,000	0	神社本庁より
2	交付金	110,860,000	110,860,000	0	本庁交付金
3	負担金	33,345,000	33,870,000	△525,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	5,160,000	5,900,000	△740,000	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	515,176	500,000	15,176	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	3,039,100	2,920,000	119,100	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	2,771,394	2,500,000	271,394	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	600,000	600,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	137,500	200,000	△62,500	
11	繰越金	25,249,958	21,831,000	3,418,958	
	合計	182,497,128	180,000,000	2,497,128	

歳出の部

(単位：円)

款	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	46,016,714	46,016,714	0	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,611,444	9,000,000	△388,556	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	4,798,527	4,500,000	298,527	会議旅費、諸費
4	庁務費	40,663,856	40,686,000	△22,144	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	27,964,424	27,973,424	△9,000	神社本庁へ
6	事業費	15,091,464	14,200,000	891,464	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	206,332	300,000	△93,668	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	907,510	800,000	107,510	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	2,355,685	2,500,000	△144,315	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	2,300,000	2,300,000	0	基本金積立金、役員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	0	20,000,000	△20,000,000	新庁舎建設特別委員会 会議費・調査諸費等
13	予備費	0	11,673,862	△11,673,862	
	合計	148,965,956	180,000,000	△31,034,044	

令和6年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,250,000	3,240,000	10,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	100,000	100,000	0	交付金
3	本庁見舞金	190,000	150,000	40,000	本庁見舞金3件分
4	雑収入	4,302	1,000	3,302	利息
5	繰越金	6,949,631	6,509,000	440,631	繰越金
	合計	10,493,933	10,000,000	493,933	

歳出の部

(単位：円)

款	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	1,994,900	3,685,000	△1,690,100	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,050,000	2,040,000	10,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本庁災害慰藉費	294,000	300,000	△6,000	災害対策資金
4	運営費	2,640	60,000	△57,360	事務費、旅費、雑費
5	予備費	0	3,915,000	△3,915,000	神道青年会災害復興支援金
	合計	4,341,540	10,000,000	△5,658,460	



祝春祭り



長野県教育関係神職協議会	長野県女子神職会	長野県神道青年会	長野県敬神婦人連合会	長野県本部 神道政治連盟	長野県神社総代会	長野県神社庁
宮司 奥谷一同 他職員	長野縣護國神社 松本市美須々六番一号	穂高神社 名誉宮司 小平弘起 宮司 保尊一 職員 同勉	戸隠神社 宮司 大杉明彦 他職員 同彦	生島足島神社 宮司 山崎洋文 氏子総代 藤勇 職員総代 同	諏訪大社 上田市下之郷中池西七〇一	松本市 四柱神社 宮司 宮坂信廣 他職員 同廣
宮司 竹内直彦 大町市大字大町二〇九七	若一王子神社	武水別神社 宮司 堀内潔 他職員 同人	手長神社 宮司 前島正	深志神社 名誉宮司 遠藤久芳 宮司 牟禮久仁 他職員 同仁	木曾御嶽王滝	御嶽神社 宮司 武居哲也
宮司 今井貴美 総代会長 宮下憲治	科野大宮社 上田市常田鎮座 總社 大宮	新海三社神社 宮司 井出清一 総代会長 中條清一 佐久市田口鎮座	富士山稲荷神社 宮司 市原貴美雄 職員総代 同	飯田市浜井町 破魔射場鎮座 宮司 滝和人	御嶽神社 御嶽神社	木曾總社



祝春祭り



<p>上伊那郡辰野町小野 権 祢 宜 今 井 野 理 也 佑</p> <p>宮 司 茅 野 理 也 佑</p> <p>矢 彦 神 社</p> <p>宮 司 立 澤 俊 輔 江</p> <p>祢 宜 立 澤 俊 輔 江</p> <p>總 代 會 長 青 木 精 三</p>	<p>上伊那郡飯島町 宮 司 矢 島 正 稔</p> <p>三 輪 神 社</p> <p>梅 戸 神 社</p>	<p>上伊那郡辰野町 宮 司 鷲 尾 隆 男 久</p> <p>小 菅 神 社</p> <p>三 輪 神 社</p>	<p>飯山市小菅の里鎮座 宮 司 鷲 尾 隆 男 久</p> <p>小 菅 神 社</p>	<p>上田市中央北鎮座 眞田三代崇敬社 宮 司 工 藤 康 高 治</p> <p>大 星 神 社</p>
<p>上水内郡小川村小根山鎮座 宮 司 山 田 充 春</p> <p>小 川 神 社</p> <p>宮 司 太 田 陽 一</p> <p>祢 宜 藤 井 治 樹</p> <p>總 代 會 長 坂 井 正</p>	<p>松本市梓川鎮座 宮 司 飯 田 泰 之 健</p> <p>住 吉 神 社</p> <p>大 宮 熱 田 神 社</p>	<p>あつみ野 宮 司 宮 田 伊 織</p> <p>水 無 神 社</p> <p>住 吉 神 社</p>	<p>木曾郡木曾町福島鎮座 宮 司 宮 田 伊 織</p> <p>水 無 神 社</p>	<p>大 御 食 神 社 宮 司 白 鳥 俊 明 子</p> <p>権 祢 宜 富 岡 清 彦</p> <p>總 代 會 長 新 井 亮 男</p>
<p>長野市松代町鎮座 宮 司 齋 藤 吉 睦</p> <p>象 山 神 社</p> <p>宮 司 瀧 澤 けい 子 基</p> <p>祢 宜 瀧 澤 理 恵</p> <p>権 祢 宜 瀧 澤 理 恵</p>	<p>長野市東町鎮座 宮 司 齋 藤 友 加 里 彦</p> <p>湯 福 神 社</p> <p>武 井 神 社</p>	<p>長野市箱清水鎮座 宮 司 齋 藤 安 彦</p> <p>湯 福 神 社</p> <p>宮 司 齋 藤 友 加 里 彦</p> <p>権 祢 宜 齋 藤 神 悟</p>	<p>木曾郡木曾町開田高原西野 宮 司 神 田 利 ゆき 乃 肇</p> <p>八 幡 宮</p> <p>宮 司 神 田 利 ゆき 乃 肇</p> <p>祢 宜 毛 利 ゆき 乃 肇</p>	<p>七二會鎮座 式 内 社 宮 司 櫻 井 龍 一</p> <p>守 田 神 社</p> <p>主 任 總 代 會 計 北 島 伸 哉</p> <p>成 田 眞 一</p>
<p>安曇野市穂高有明字宮城 彫刻で名高き裕明門 宮 司 山 崎 佳 宏</p> <p>有 明 山 神 社</p> <p>宮 司 山 崎 佳 宏</p> <p>總 代 會 長 島 山 忠 幸</p>	<p>長野市岩石町鎮座 えびすの神 宮 司 丸 山 肇</p> <p>西 宮 神 社</p> <p>宮 司 丸 山 肇</p> <p>役 員 總 代 一 同</p>	<p>大町市社宮本 宮 司 松 井 秀 吾</p> <p>仁 科 神 明 宮</p> <p>宮 司 松 井 秀 吾</p> <p>氏 尊 養 矢 口 博 文</p>	<p>飯田市八幡町一九九九 宮 司 伊 原 義 雄</p> <p>鳩 ケ 嶺 八 幡 宮 (重要文化財菅田別尊神像)</p> <p>宮 司 伊 原 義 雄</p> <p>總 代 會 長 加 藤 潔</p>	<p>岡谷市小井川鎮座 宮 司 有 賀 寛 典</p> <p>小 井 川 賀 茂 神 社</p> <p>宮 司 有 賀 寛 典</p>



祝 春 祭 り



<p>美和神社 宮司 齋藤吉睦 権祢宜 深澤秀夫</p> <p>長野市三輪鎮座</p>	<p>白山社 宮司 伊藤光宣</p> <p>伊那市御園区鎮座</p>	<p>神明宮 宮司 永持はな子 祢宜 宇治橋邦彦 権祢宜 小穴真希</p> <p>松本市村井町</p>	<p>小野神社 宮司 宇治橋邦彦 祢宜 宇治橋邦彦 総代会長 熊井芳彦</p> <p>塩尻市北小野鎮座</p>	<p>三嶽神社 宮司 宇治橋牧彦 権祢宜 宇治橋邦彦</p> <p>塩尻市中西条鎮座</p>
<p>洲波神社 宮司 宮澤佳廣</p> <p>安曇野市豊科南穂高</p>	<p>鹽竈神社 宮司 大澤明三 祢宜 大澤節子 総代会長 蜂谷泉</p> <p>奥州一之宮鹽竈神社御分社</p>	<p>熊野出速雄神社 (皆神神社) 宮司 武藤弘樹</p> <p>長野市松代町皆神山</p>	<p>長沼神社 宮司 長沼忠行 祢宜 長沼房一 権祢宜 長沼誠一</p> <p>長野市大町鎮座</p>	<p>駒ヶ根市赤穂鎮座 大宮五十鈴神社 宮司 白鳥俊明 祢宜 白鳥操子 http://suzujinja.com</p> 
<p>荒船山神社 宮司 小間澤利貴 祢宜 小間澤肇 総代会長 春日夫</p> <p>佐久市鎮座</p>	<p>神林神社 宮司 宇治橋邊賢淳 総代会長 渡邊賢夫</p> <p>松本市神林鎮座</p>	<p>五宮神社 宮司代務者 高橋守</p> <p>木曾郡南木曾町田立鎮座 県無形民俗文化財(花馬祭り)</p>	<p>稻荷神社 宮司 伴野健一 総代会長 春日利巳</p> <p>佐久市白田鎮座</p>	<p>飯山市五束鎮座 (国重文若宮八幡社) 健御名方富命彦神別神社 宮司 高橋稔 祢宜 高橋隆晶 総代会長 江澤文</p>
<p>八王子神社 宮司 平林秀文</p>  <p>「御朱印さんぽ」</p>	<p>佐良志奈神社 宮司 豊城憲和 主任総代 沓掛清 外役員一同</p> <p>千曲市若宮鎮座</p>	<p>神社庁松塩筑支部 支部長 隠岐光洋 副支部長 小林司 副支部長 北澤道生</p>	<p>駒嶽神社 木曾郡上松町</p>	<p>木曾郡上松町 諏訪神社</p>



祝 春 祭 り



宮 司 石 和 大	白 鳥 神 社	海野氏 氏神様 真田氏 氏神様 信州海野宿鎮座	飯 沼 神 社 宮 司 清 住 邦 廣 総代会長 関 敏 男	上田市生田鎮座	子 檀 嶺 神 社 宮 司 清 住 宗 廣 総代会長 池 内 俊 郎	上田市武石鎮座	麻 績 神 明 宮 宮 司 山 崎 洋 文 役員会長 峰 田 昶	東筑摩郡麻績村麻績座 重要文化財	式内 皇 足 穂 命 神 社 諏 訪 社 合 殿 宮 司 宮 下 俊 樹 祢 宜 宮 川 和 工 総代会長 上 條 直 光	長野市中条鎮座
-----------	---------	-------------------------------	--------------------------------------	---------	--	---------	--	---------------------	---	---------

宮 司 鷹 野 健	諏方社上下二座 (松原諏方神社)	南佐久郡小海町豊里鎮座	山 家 神 社 宮 司 押 森 慎 総代会長 松 尾 重 則 婦人会長 大 塚 な お 美	安曇野市明科潮鎮座	神 明 宮 宮 司 隱 岐 光 洋 祢 宜 隱 岐 有 紀 子	上田市真田町長真田鎮座
-----------	---------------------	-------------	--	-----------	---------------------------------------	-------------

誰が舞っていたのでしょうか?
 今号の表紙
 十月二十八日に開催されました第
 六十回全国神社総代会大会の清興
 『戸隠神楽』、その戸隠神楽の中心的
 な舞であります「岩戸開きの舞」は、
 天の岩屋にお隠れになった天照大神
 が再び外に出て清明(さやけ)な世
 になった様子を表現されています
 が、天宇受売(あめのうずめ)を舞
 われていたのは我らが副庁長、水野
 邦樹さんでした。

編集後記

前号では、委員長所信表明のようなものを書かせて
 頂き後先になってしまいました。今期の庁報編集委
 員の皆様を御紹介させて頂きます。

副委員長には、井出行則(南佐久)さんを指名させ
 て頂き、委員として(以下敬称略)桃井義弘(諏訪)・
 伊藤光森(上伊那)・遠藤綾子(松塩筑)・片山求(下
 高井)・清住邦廣(上小)・市原日貴(飯伊)・押森慎(上
 小)・隠岐有紀子(松塩筑)、この皆様に御就任を頂き
 ました。なんとも個性豊か且つ才能溢れる見るからに
 楽しいメンバーが揃ってくれました。

委員長が委員長ですので、お酒の席がメインだろう
 と言われてしまいましたが、やるからには楽しく有
 意義な三年間にしたいと思っていますので、念いを共
 有しながら読みやすい紙面に心がけて取り組んで参り
 たいと思っております。ホームページとリンクしなが
 ら：と前号で書かせて頂き、この間に調査を行いました
 が、神社庁教化部としても手
 を入れたいお考えがあるよう
 ですので、担当委員会とも力を合
 わせて一緒に取り組むことが
 きたらと思っております。

最後になります。今号より
 「春祭号」・「秋祭号」に変更して
 発行させて頂き、ことを御了
 承頂ければと存じます。
 皆様の御要望などをお聞かせ
 頂きますれば幸いに存じます。

編集委員長 白鳥俊明



神饌しんせんの供え方

神様にお供えする食べ物やお酒等を神饌と言います。品目は神社によって異なることはありますが、一般的には米、酒、餅、魚、乾物(海菜)、野菜、果物、菓子、塩・水等の順番でお供えすることが多いです。そのほか、季節の品や、神社の伝統的なお供え物もあります。



台数の合計が奇数の場合は案(机)の中心に1台目から順に供えます。偶数の場合は向かって右側が上位となり、中心を挟んで左右に、上記番号の順に供えます。いずれの場合も下げる場合は供えた順とは逆に下げます。

三方さんほうの受け渡し方



次に、渡す者が右、左の順に手を引くと同時に、四指の位置を折敷の裏と胴とに移しかえて捧げ持ちます。

両者ともに、神饌に息が掛からないよう目の高さに持ちます。

受けるには、左、右の順に手の平を胸に当てて三方の重さを受け止め、親指は折敷の縁の外側に当てて、他の四指は揃えて、渡す者の手の甲を斜め下の方から手を覆うようかけます。